



第18号
2022年6月発行



医療法人財団 立川中央病院
介護老人保健施設
アルカディア

<https://www.arcadia-kaigo.com/>



今回は、利用者様の安全を守る

「離床センサー」について触れたいと思います。



介護現場では、利用者様の日常生活の中どれだけ注意していても転倒転落事故が起こってしまう現実があります。日常生活で起こる転倒転落は軽い怪我ですむ場合もあれば、骨折や頭部外傷といった大きな事故に繋がる場合もあります。転倒転落で怪我や骨折をすると、治るまで身体を動かす機会が減ってしまいます。身体を動かさない状態が長く続く事によって、「身体機能の低下」「持病の悪化」「他の病気の併発」「精神的なダメージ」など引き起こす場合があります。精神的なダメージから『また転んでしまったらどうしよう』という恐怖心、自信喪失から部屋に閉じこもりがちになり、活動量が減る事で身体機能が低下してしまいます。

高齢者にとって一度衰えた筋力や体力を取り戻す事は容易ではありません。リハビリにも根気が必要となります。身体を動かさない時間が長くなるほど、そのまま寝たきりになる可能性が高くなってしまいます。つまり転倒転落事故は生活や人生の質が侵されてしまう事に繋がってしまうのです。

アルカディアでは利用者様の豊かな生活や人生を守る為に転倒転落予防対策に努めています。そこで今回は転倒転落予防対策の中から、就寝中の対策の一つである離床センサーについて紹介させていただきます。

離床センサーとは・・・？ ※離床＝ベッドから起き上がり離れる事です。

医療機関や介護施設などでベッドからの転倒、転落、徘徊などによる事故を予防するために使用される機器です。学会等でも転倒や転落による事故の予防には離床センサーの使用が有効であることが報告されているそうです。離床センサーの使用対象となるのは認知症の方が多く、危険認識が乏しくベッドからの転倒、転落の危険性が著しく高い方や、ナースコールの理解が難しい方、徘徊される方です。介護現場だけでなく、脳外科疾患、高次脳機能障害の看護現場でも使用されているそうです。

離床センサーには、ナースコールシステムと連動し、離床をナースコールで知らせてくれる等、様々な機能や使用が揃っています。

センサーは介護保険適用のレンタル品もあり、安価でベッド周辺に設置するだけで使用でき、在宅介護でも導入しやすくなっています。

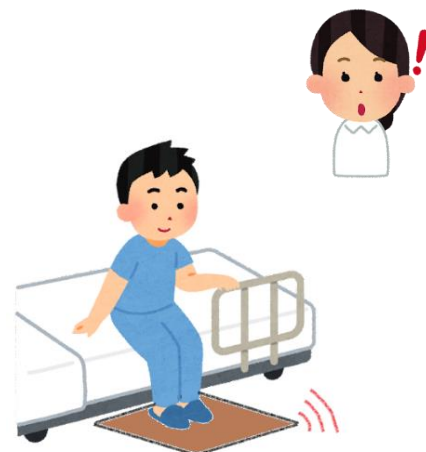
ここからは、当施設で使用している「離床センサー5種」を紹介させていただきます。

・床マットセンサー

ベッド足元の床に設置するタイプです。

利用者様がベッドから立ち上がろうと床に足を付いたときにセンサーマットが体重を感知して反応し通知してくれます。

起き上がり動作、歩行動作に大きな問題は無いが、徘徊が見られる方等に使用し、利用者様の行動把握に役立てています。



・サイドセンサー

ベッドの端（降り口）にセンサーパッドを設置するタイプです。利用者様がベッドの端に座ったり、滑り落ちそうになる等でセンサーパッドに体重がかかったことを感知して反応し通知してくれます。※シーツの下に設置します。軟らかい物なので寝心地への影響はほとんどありません。

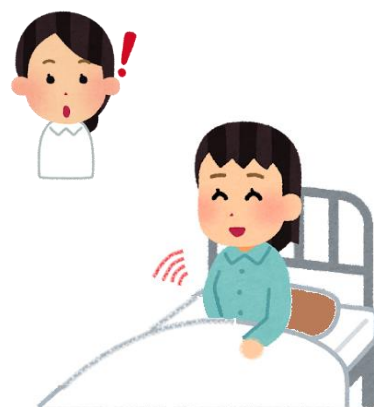
日常生活動作に困難があり、立ち上がり直後に転倒転落の危険が高く起き上がり動作がそれほど速くない方へ使用します。通知時に速やかに居室へ訪室することで転倒転落の予防に役立てています。



・起き上がりセンサー

ベッドへ横になったときの肩から腰にあたる部分や枕の下にセンサーパッドを敷くタイプです。利用者様が起き上がった際にセンサーパッドに体重がかからなくなったことを感知して反応し通知してくれます。※シーツの下に設置します。軟らかい物なので寝心地への影響はほとんどありません。

行動が速く、ベッドから立ち上がろうとすると直ぐに転倒する可能性がある方や、ベッドから転落の可能性が高い方に使用します。通知時に速やかに居室へ訪室することで転倒、転落の予防に役立てています。



夜間や早朝などの時間帯は人員配置が限られています。その中で安全と安心を守ろうとしてもいづれ限界を迎える事が予測されます。そうした予測は国も予測しており介護機器の導入について推奨する動きがあり、東京都ではICT（情報通信技術）事業が推奨されています。

現在、アルカディアの認知症専門棟では、「転倒予防」だけではなく利用者様の「プライバシーの配慮」や「睡眠生活リズムの変化」の把握を目的に次世代介護機器を導入し、更に優れたセンサーの使用を開始しています。

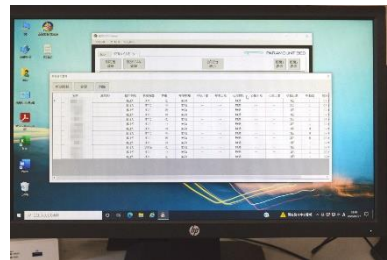
以下で紹介する機器は職員の業務効率の向上や身体的・精神的負担も軽減できるというのも大きな特徴となっています。

・眠りスキャン

起き上がりを検知する以外に入眠状態（覚醒/寝返り/睡眠の深さ）や呼吸、心拍を測定し、スマートフォンで確認する事が出来ます。利用者様の状況が分かるので、過度な訪室が減り、プライバシーが保たれ、眠りの質の向上が図れるようになります。また、直近2週間分の入眠状態・呼吸・心拍を保存できます。

※マットレスの下に設置する為、寝心地への影響はありません。転倒転落予防の他、利用者様の体調管理や体調の急な変化の早期発見にも役立っています。

眠りSCAN



・シルエットセンサー

覚醒、起き上がり、離床状況がシルエット画像としてスマートフォン上に表示され、利用者様の状態を確認する事ができます。※カメラセンサーの為、ベッドへの影響はありません。

転落や転倒起こりうるかシルエット画像として確認出来る為、利用者様の居室への不必要な訪室が避けられ、プライバシーへの配慮しつつ事故の予防に役立っています。

居室の明るさとは関係なく、画像はシルエットでスマートフォンに送られるので入眠を妨げず安全を守る事が出来ます。



ベッドから起き上がった時にお知らせします。



顔や手、足などがベッドからはみ出した時にお知らせします。



高齢者の離床（ベッドにいない状態）をお知らせします。

アルカディアでは、これらの離床センサーを利用者様の身体状況と認知症状による危険行動のパターンを把握したうえで適切なタイプを検討し、重大な事故を可能な限り防止できるよう使用しています。

(代)

042-569-3900



info@arcadia-k
aigo.com

1 介護老人保健施設
アルカディア
東京都武蔵村山市三ツ藤1-9-8



Facebook



Instagram



Twitter

ホームページQRコード



◇ホームページでは施設内や行事等の紹介もしております。
QRコードよりご覧ください。

◇施設見学をお受けしております。
ご興味のある方は左記の連絡先までまでお問い合わせください。

◇次回は8月発行です。
次回も、皆様へお役立ち情報等をお伝えします。

近隣地域向け広報誌
「FIELDフィールド」
をご覧ください。
誠に有難うございます。